不登校キャンプの意義

— 長期型ならびに短期型不登校キャンプ参加経験者への PAC 分析 —

○小正浩徳¹・滋野井一博¹・赤田太郎²・友久久雄¹

(¹ 龍谷大学文学部・² 龍谷大学短期大学部)

キーワード：長期型不登校キャンプ 短期型不登校キャンプ PAC 分析

A Significance of the Camp with School Absentees

: Personal Attitude Construct Analysis of a university student who was a participant of the long-term and short-term camp with school absentees

Hironori KOMASA¹, Kazuhiro SHIGENO¹, Taro AKADA² and Hisao TOMOHISA¹

(¹ Faculty of Letters Ryukoku Univ., ² Ryukoku Univ. Junior College)

Key Words: the long-term camp with school absentees, the short-term camp with school absentees, the PAC analysis

目 的

不登校児童生徒を対象の、参加者の意思が重要視され肯定される受容型キャンプ（不登校キャンプ）には、その実施期間によって短期型と長期型とに分けることが出来る。短期型は1泊2日ないし2泊3日であり宿泊には施設を用いる。長期型は6泊7日を超えるものであり施設での宿泊の他、キャンプ地でテントを設営しそこに泊まるものである。

この両方のタイプの不登校キャンプに参加した経験のある大学生にインタビューを行い、長期型不登校キャンプと短期型不登校キャンプの同異を検討し不登校キャンプの意義を探ることを目的とする。

インタビューには、内藤（2004）が作成した個人別態度構造（Personal Attitude Construct ; PAC）分析を用いた。

方 法

対象者: 中学生当時不登校であり、中学から高校卒業まで不登校キャンプに参加していた男性1名。

実施時期: X 年7月から10月にかけて計6回。内訳は、7月～8月の計3回で長期型キャンプについての PAC 分析を、8月～10月の計3回で短期型不登校キャンプの PAC 分析によるインタビューを行った。

手続き: 内藤（2004）による PAC 分析の手続きに従い、不登校キャンプについてのイメージや言葉をカードに自由に記入してもらった。続いて全てのカードを対し、ランダムに配置した質問紙を作成し、その対が直感的イメージの上でどの程度似ているか判断しその近さを7件法により採点する質問紙を作成し、対象者自宅へ郵送し、回答後返送してもらった。採点した結果をワード法によるクラスター分析を行った。作成されたデンドログラムから、対象者と共に群を抽出し、それぞれの群についての内容を吟味したことを聴取した。尚、固有名詞等については、個人情報保護のため、本質を変えないよう配慮し表現を変えてある。

結 果

それぞれ想起されたイメージについて、対象者との話し合いを元に、クラスターの検討を行った（図1、2参照）。

図1：長期型不登校キャンプのワード法によるクラスター分析の結果

図2：短期型不登校キャンプのワード法によるクラスター分析の結果

考 察

PAC 分析から「キャンプという場に対する視点」（長期第1, 2, 3, 4群, 短期第1, 2, 5群）, 「参加者に対する視点」（長期第6, 7群, 短期第4群）, 「スタッフへの視点」（長期第5群, 短期第6群）, 「自分に対する視点」（長期第3, 4群, 短期第3群）という共通する視点が明らかになった。対象者は自分なりに不登校キャンプに参加する意味を見だし、参加者やスタッフとの関係をみながら参加していた。このなかで、期間の長短によって不登校キャンプをどう過ごすかを考えていたようである。

家族についての視点が短期第7群で見られたが、これは、同じ宿泊施設にキャンプ参加者の保護者も滞在していたことによる。しかし、保護者がいることは、不登校キャンプの参加者に影響を与えているようである。